

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社 学研データサービス

②施設・事業所情報

名称： 睦町保育園	種別： 認可保育園
代表者氏名： 園長 南 真起子	定員（利用人数）： 90（79）名
所在地： 232-0041 神奈川県横浜市南区睦町1-30	
TEL： 045-710-6230	ホームページ： https://mutumicho-hoikuen.com/index
【施設・事業所の概要】	
開設年月日	2001年4月1日
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 乳児保護協会
職員数	常勤職員： 31名 非常勤職員： 9名
専門職員	保育士 29名 栄養士 2名
	看護師 2名 調理員 4名
	事務員 1名 清掃・用務 2名
施設・設備の概要	居室数 保育室6室、多目的室1室、ひろば1室、事務所、給食室、休憩室2室、一時保育室1室、病後児保育室1室、面談室3室、倉庫及び津波避難室1室
	設備等 園庭、屋上園庭2か所、駐車場2か所、シャワーブース5か所、一時事業保育棟エレベーター等

③理念・基本方針

乳児保護協会は、大正2年9月の関東大震災によって罹災した家庭の乳幼児の救済にあたった事を機に、大正13年2月、故黒川直胤が創設した。「人間の人格形成の基礎はだいたい乳児期までに形づくられる」を旨とした会長の意志を引継ぎ、乳幼児の健全な人格形成を目指して、保健と育児の支援に努めてきた。

平成13年4月、横浜市の要請を受け、保育所入所児の増加、就労する保護者支援、地域の子育て家庭への育児支援という社会のニーズに応える為、病後児保育室を併設した睦町保育園30名定員を開設した。また平成15年4月、一時保育室を併設し保育所の園児人数を90名定員に増員した。

（理念）利用者が個人の尊厳と保持しつつ、心身ともに健やかに育成されるよう支援する。

（方針）のびのび（自分を肯定＝愛されている）
いきいき（欲求が満たされている＝安心）
たのしく（豊かな活動を積み上げる＝遊ぶ）

④施設・事業所の特徴的な取組

睦町保育園は、運営法人乳児保護協会の創設理念「乳幼児の健全な人格形成」に基づいて、地域の中で「のびのび、いきいき、たのしく」をモットーに、保育活動を行っています。0～2歳児クラスでは、愛着形成にとって大切な時期であることとし、子ども一人ひとりにていねいな保育を行い、基本的な生活習慣を身に付けていくよう支援しています。3～5歳クラスの3年間は、異年齢保育を行い、子ども同士のかかわりの中で気づくことや学ぶことを大切に、人とのつながりを学ぶなどの非認知能力を意識した保育を行っています。地域との関係作りにおいては、「横浜市南区保育施設長会議」「南区子育てもっとネット会議」への参加、「睦コミュニティハウス」「横浜市睦地域ケアプラザ」などの地域関係機関との交流を積極的に行っています。園の専門性や機能を生かした子育て支援活動として、地域の子育て親子を対象とした育児相談、食育講座を実施しています。また、一時保育室「みつばち」を運営し、さまざまな年齢の子どもたちが集団生活を体験する機会を提供しています。園で使用している教材やおもちゃは、地域の子育て親子や関係機関に貸し出しています。公益的な活動では、地域の防災対策において、園の施設を避難場所として開放するとともに、防災備品の備蓄、町内会の防災訓練への参加などを行い、地域住民の安全確保に協力しています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年4月27日（契約日）～ 2023年11月24日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1 回（ 2016 年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

◆災害発生時における対応フローを明示し、安全確保対策を講じています

地震、火災、風水害などの災害発生時における対応フローを基に、園全体の防災組織を編成し、非常災害時における安全確保対策を講じています。職員には、保育中に地震や火災、大雨が発生した際の対応方法を明示し、適切な行動を取るよう周知しています。また、防災計画や年間避難訓練計画に基づいて、防災訓練、避難誘導訓練、引き渡し訓練を定期的実施しています。園全体のリスクマネジメントに関しては、業務継続計画（BCP）を策定し、リスク発生時の初動対応、保育環境の復旧に向けた方策などを明示しています。園舎の設備環境については、今年度、修繕工事を完了し、安全で清潔な環境を整えています。

◆子どもが自主的に生活や遊びを行うことができる環境を整えています

子どもが自主的に生活や遊びを行うことを尊重し、職員は、子どもたちを見守りながら、遊びが広がるようにしています。本やおもちゃを設置する棚については、子どもたちが好きなものを自由に取れるよう、高さを調整しています。また、ブロックや廃材、素材などを用意して、自由に表現活動ができるようにしています。園舎内の広い空きスペースでは、リズム運動や体操教室を行って、子どもが自発的に身体を動かす時間を多く設けています。天気の良い日は、近くの公園に出かけ、自然に触れながら好きな遊びを楽しんでいます。夏祭りなどの行事においては、子どもたちが進め方を話し合って決め、協同して活動することを経験しています。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

改修工事が数年にも及んだ為、7年ぶりの第三者評価受審でした。自分たちの保育が評価されるということに、緊張感を抱きながらもこれを好機として捉え、前向きに臨みました。

コロナ禍や改修という落ち着かない状況での保育・運営を保護者がどう受けとめているかを懸念していました。保護者アンケートからうかがえる課題を真摯に受けとめ、評価していただいた事には謙虚に襟を正す思いです。

また保育の面では、現状のままで良いとの報告に、自分たちの行っていることが大きくずれていないと認識することが出来、今の状況を維持していくことで再確認をすることが出来ました。

事業計画の策定では、中・長期計画と単年度がきちんと連動しているので、今後はプロセスを明確にし、職員が参画できるようにすることで人材育成に繋がると理解しました。

今回の受審でチェックポイントが見えてきたことやアドバイスを参考にして、新たに具体的な目標を立てたいと思います。ありがとうございました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり